

女子 經過報告

信州大学山岳会
女子山岳部

女子山岳部の経過報告にあたって

S.A.C 委員長 大谷 敬

昭和43年度は、伊那松本に1名 長野に2名 新人1名の女子部員が 昭和44年度に女子山岳部を設立しようという目的で1年間女子だけの合宿を行なってきました。その結果、4名という少ない人数ではあるが女子だけを活動を行なえる目処が立ち、昭和44年4月のS.A.C委員会でも正式に信州大学女子山岳部が承認され現在に至っています。

以後新人合宿はS.A.Cの方針としてS.A.Cで合同で行ない、夏山は女子部独自の合宿を持ちましたが、部の目的として掲げられた女性らしい山登りというものには程遠いものでまだ深い思考がなされているとは思えないものでした。それに加え、女子部そのものの形態が明確にされず、大学本部厚生課 各学部顧問教官あるいはO.B組織である学士山岳会等に正式に報告されないまま、6ヶ月が過ぎ去り、内部事情もありましたが9月のS.A.C委員会の席では女子部解散の話も持ち上がる始末でした。そこで発奮した部員は頭初の理想としたものを振り返り、もう一度頑張ってみようということで10月のS.A.C委員会で部の存続を再確認されました。

こういう過程を経ると部としても、各個人としても大きく進歩発展するものと思います。生まれの間もない組織は失敗をしてもその度に進歩し段々一人前になって行くものです。S.A.Cの男子会員は、この生まれの間もない女子部をバックアップしてくれて下さい。不満な点、助言、報告などかどんどん詰合ってください。S.A.Cの発展につなげると思います。

経過報告

42年度

5月新人合宿、6月練成合宿(針の木) 10月秋山合宿(洞沢) 12~1月冬山合宿(七倉~針の木)

以上は男子との混成による山行を行う

夏山縦走

4年2名、2年2名、1年3年3名の女子 party で入山

白馬一針の木一五色一立山 を経て室堂へ下山

冬山合宿以後女子部独立の気運が高まる。

春山合宿 常念・蝶ヶ岳

新谷さんをオブザーバーとして ^引 上高地から入山 蝶・常念を経て三郷へ下る。 43. 3/29 ~ 4/4

43年度

新人募集ならず

新人合宿 洞沢

4/29 ~ 5/5

女子新人募集したが集らなかった。男子と一緒にいる訓練は女子のみで指導してもらう。

松本にたびたび来て新人募集を計る

針の本山山行 針の木峠にマ

6/1 ~ 6/2

女子新人2名入部 生活技術と共に雪上訓練を習得 一年が入ってから女子部独立の方向に本格的に取り組むようになった。

夏山合宿 三伏峠~聖岳(予定は光る)

7/25 ~ 8/2

新人が新人合宿に入ってきていいこと、生活技術の習得に不足がみられた。台風のために大きく足止めをくい、計画通りに行かなかったが自分達で合宿を持った事に一歩前進した

一年一名が退部

リーダーを決め、一ヶ月に2回の例会を持つことにし、
これからの方向を考えていく
SAC委員会に出席するようになる。

秋山山行 燕岳 } — 槍 — 洞沢
常念岳 } (お鉢まわり) 9/30~10/4

9月頃の気のゆるみを考え、部員間の密を計るため
気軽な山行を持つため個人山行とした。

女子部の目的 方向を考える。

冬山春山偵察 11/22~1/24, 11/30~12/2

序々に装備をもらいうけることに決まる。

冬山合宿 ハ方根オーケルン付近にて 12/24~12/31
スキー訓練

スキーを導入する事に決定した後、コースを決め9
日間の合宿を行った。リーダーシップ、コースの点
で問題の多い山行であった。

地域的に離れているので問題意識やこれからの事を考
えたいと思いゼミナールを行うことになった。

春山合宿 柵池-白馬岳 44. 3/8~3/19
スキー訓練とともに白馬 attack

台湾坊坊主による悪天などにより白馬岳 attack は
失敗。稜線の強風に耐え得るアイゼンワークの不足
も重要な原因であった。しかし良く動いた山行であ
った。一年間のしめくくりとして実り多かった。し
かし下山日に一人骨折してしまった。又、冬山で失
敗が再度みられた事は残念であった。
経験した

44年度

女子部独立

4月13日SAC委員会にて承認され女子山岳部発足

信州大学山岳会女子山岳部

女子部は

- 一 信州大学山岳会の中の「山岳部」として位置する。
- 一 山を愛する女性が動きやすい部とし、幅広く動ける岳人になるよう努力する
- 一 信州大学山岳会に入会する全ての女子部員を構成する。

44年度方針

目的

女性の山登りを考え、オールラウンドな山登りと部活動を通じて独立心を高め、お互いの和とともに人間形成の向上を計る。

山行計画

形式 クラブの体制確立のため、又人数上合宿形式とする

歓迎山行 新人の歓迎と指導、チームワークの強化
我部の今後を考え山登りに対する意見の交換

新人合宿 SACの1パーティーとして行動、SAC
会員とのコンタクトを持つ 雪上訓練、テント
ワーク、残雪期の山を知る

夏山 三年部員が骨折、教育実習のため上級生不足
北海道または東北の山塊を静かにひっそりと
自然にとけこむように縦走

積雪期 スキーを使う山行を行う そのためにスキー
アイゼン、ワッパの訓練の為にトレーニング
合宿を冬に持つ。

他に 秋山 自ら山に行きたいと思う者同志で山行
を持つ機会とする。

メンバー 構成

C.L	牧田敦子 (農3年)	S.L	中田法子 (教3年)
新人係	森下妙子 (教3年)	装備	宮田千代子 (教2年)
記録	牧田敦子	遭対	中田法子
会計	宮田千代子		
S.T			

会合	リーダー会	3・2年部員	会の運営に因すること
		月一回	
	部会	全員	その実陸 月一回
	ミーティング	〃	山行に因して
			随時

リーダーのことは

C.L牧田敦子

1969年度 SACの中の女子部員がタコ足大学という地域のギャップをのりこえて結集し女子部が発足するに到りました。従来、女子部員は男子と共に活動してきましたが、おそらくその中で肉体的、精神的ハンディを背負い、男子に依存する独立心のなさに失望し、附録的存在に悩み苦しんだに違いありません。その証処に、過去何度か女子部をつくろうという動きがあったのですが、それは人数の少ないこと、足並のそろわないことなどの理由（障害）によって実現されませんでした。私達も同じ様に山を愛する女性が動きやすい女子部をつくらんとして一年間男子の上級生の指導をえながら活動。又SAC会員の援助のおかげでやっと発足に及びました。がしかし部員が少ないということはどうしようもありません。むしろその以前に部員の真ということも問題になりますが、まずは駒を揃えて、山に行けるパーティーが成り立たぬば部の発展は望めません。今後も部員の確保には頭を悩まし続けることとしよう

このさ、やみな女子部に今後とも皆様方の御批判、御叱責、御援助を乞う次第であります。どうぞよろしくお願ひ致します。

女子山岳部名簿

	学年 部广	現住所 (上) 帰省先 (下)	血液型
牧田敦子	3 · 3 農 · 園農	伊那市旭町山口耳鼻咽喉科内 ^{Tel} 2-3878 東京都杉並区桃井 2-17-6 (03)399-0511	B
中田法子 (兼敏)	3 · 3 教 · 家	長野市西長野 175 宮坂方 長野県南安曇郡三郷村山倉 2343	A
森下妙子 (悦郎)	3 · 3 教 · 特殊	長野市西長野 175 宮坂方 横浜市港北区篠原町 206 401-2270	A
宮田千代子 (幸一)	2 · 2 教 · 家	長野市横沢町 1269 米倉方 2-3534 長野県北安曇郡美麻村 21003	A

~~顧問~~

~~青藤 豊~~

~~信州大学教育学部地学科助教授~~

~~長野市宇都 信州大学教育学部宿舎~~